日本の知恵、プラスチックの知恵

国立国会図書館所蔵

早駕籠

はやかご

交代の担ぎ手もついた、急ぎの駕籠

駕籠は、1389(康応元)年に足利義満が、厳島詣(いつくしまもうで)の際に使用したのが最初だとか。また豊臣秀吉は「乗輿(じょうよ)の制度」で駕籠の使用規定を決めました。徳川家康の時代になってからは武家や公家だけではなくやがて一般の庶民の使用も許されるようになりました。その後は、武家が乗るような高級な仕様のものは「乗り物」と呼ばれ、街道を走る宿駕籠など一般的なものは「駕籠」と称し、目的に応じた種類も数多く出て、日常に使えるようになりました。通常は一里(約4キロ)を1時間くらいで走りましたが、早駕籠と呼ぶ急ぎ便は交代要員がついて 40分くらいで走破。江戸と京都間が徒歩だと通常約2週間かかるところを、早駕籠は4日半ほどで移動したそうです。

この早駕籠のようなスピーディーな働きは、次世代の光電気複合配線モジュールとして、高速で省エネ・省スペース化、大容量のデータ伝送を可能にした「ポリマー光導波路」の発想にも似ています。

光導波路フィルム

高速通信用光回路製品

プラスチックのパイオニア
住友ベークライト株式会社

光電気複合インターポーザ事業開発推進部
〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目5番8号 天王洲パークサイドビル
TEL:03-5462-4111 FAX:03-5462-4873 https://www.sumibe.co.jp